

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	武雄市立武雄小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上・・・一人一台端末を活用した授業実践と学力の向上につながる授業改善を行う。端末の活用により、一人一人のつまづきを把握して、個に応じた指導・支援の充実を図る。 ・望ましい生活習慣・・・家庭と連携しながら、「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を図る。年間計画に基づく食育指導や、啓発のためのお便り、ゲームへの取り組みせ方などに関する講演会等を充実させる。 ・特別支援教育・・・すべての教職員が研修を深め、児童の実態に即した対応力を身に付ける。引き続き、児童理解を深めたり、保護者の対応をしたり、関係機関との連携を図りながら、支援を行っていく。 ・業務改善・働き方改革・・・それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を行い、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。定時退勤日の推奨をする。

2 学校教育目標	夢と志をもち、意欲的に取り組み、自己肯定感に満ちた児童の育成
----------	--------------------------------

3 本年度の重点目標	【志】 夢いっぱい、志をもってがんばる子ども 【知】 やる気いっぱい、進んで学ぶ子ども 【徳】 元気いっぱい、優しい子ども 【体】 元気いっぱい、たくましい子ども
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価					
重点取組				中間評価		最終評価				学校関係者評価	主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・45分完結と基礎・基本の確実な定着	○めあてとまとめ、振り返りを通して、理解したことを自覚したり、理解を深めたりすることができている」と回答した教師80％以上 ○児童との単元計画や評価の共有ができていると回答した教師の割合80％以上	・単元でどんな力を身に付けるのか、学習のゴールを明確にする。 ・めあてとまとめ、振り返りの授業を徹底する。 ・どの子も出番のある授業を行う。 ・単元や授業の可視化、評価の共有などを通して、児童にとって個別最適で協働的に学ぶ環境を作る。	B	・共通理解しているものの、共通実践の徹底ができていない。 ・児童にとって個別最適で協働的に学ぶ環境を作るために、更に教材研究を深めていく必要がある。	B	・児童への「授業では、めあてをもって学習し、まとめや振り返りができましたか」というアンケートでは、肯定的な意見が92.3%だった。また、単元計画や評価の共有のアンケート結果は100%だった。基本的な学習の流れを大切に、児童にとってわかりやすい授業を行うと意識して共通実践することができた。 ・成果指標に照らし合わせると評価はAとなるが、学習状況調査正答率が平均に届かなかった。今後、児童の実態に即して個々の児童の学力を高めるよう教材研究を深め、指導力を高めていき	B	・学力向上に関しては、学習意欲や学力低下児童への支援策が喫緊の課題と考える。課題山積とは思いますが、義務教育の使命だと考え、さらに尽力いただきたい。 ・人手不足だろうが、個別指導、複数人指導で学力向上につなげてほしい。	学力向上コーディネーター(桑原)	
	○ICTを活用した教育の推進 ・1人1台端末を活用した授業改善	○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための授業改善における活用率90％以上	・スキルアップ研修や、低中高特での情報共有の時間、校内研修の時間を通して、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実のための授業改善に向け、情報共有等を行い、実践に生かす。	B	・ICT活用ミニ研修を2回、タブドライブ活用研修、ICT支援員によるスキルアップ研修の時間をとり、授業改善につながる研修を行った。また、職員連絡会等で随時情報共有する時間をとった。今後も教員や児童の実態を把握しながらよい情報を共有し、研修の時間を行っていく。	A	・教師への「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための授業改善ができたか」というアンケートでは79.2%が肯定的な意見だったが、どの学年も年間2回は個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて授業改善に取り組み、授業公開を行うことができた。次年度は情報共有・相談の機会をさらに増やし、更なる授業改善を図っていきたい。	A	・学力向上に向けた指導改善に日々努められていると思う。引き続き研鑽を期待している。	研究主任(徳永) 教育情報化推進リーダー(森)	
	○教師の授業力向上	○自己目標申告書の達成率80％以上	・校内研究のテーマであるメンタリングを通して、各教師が自分の課題解決に向けて目標設定を行い、自己目標申告書に反映させる。 ・OJTを活用したミニ研修会やメンターとメンティーのペアでの研修、全体研修等、職員の研修ニーズに合わせて取り組む。	B	・教員アンケートの結果をもとに研修を計画した。7月までにメンタリングを一人1回以上実践、報告会を行った。また、夏季休業までにOJTによる研修を7回行った。道徳、体育、音楽、算数など職員のニーズに合わせた内容を取り上げることができていると思う。また、教員同士の関係が密になり、相談しやすい雰囲気ができているように感じている。今後は、12月までに全職員が1回以上メンタリングを行い、1月に実践発表会を行う予定である。	B	・教師への「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための授業改善ができたか」というアンケートでは、向上した(28%)、どちらかといえば向上した(72%)合わせて100%は素晴らしい結果だと思う。 ・若手職員の良さを認めつつ、ベテラン教師のスキルをうまく引き継いでいけたらと思う。	A		研究主任(徳永)	
●心の教育	●◎児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎学校行事や日頃の生活、道徳の授業を通して、児童の豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めていると回答した教師90％以上	・内容項目を確認して確実な授業の実施を行う。 ・教室の掲示コーナーに道徳の学習や学校行事等の足跡を残し、児童の心を育む環境づくりを定期的に行う。	B	・どの学年も計画的に道徳の授業を行うことができている。 ・それぞれの内容項目をどのような形で実施されているのかを職員に向けた道徳通信で出している予定である。 ・教室の掲示コーナーには、道徳で取り組んだワークシートや行事等の振り返りが掲示されている。	A	・教師アンケートで「児童の豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めている」と回答した割合は96%と高かった。次年度では、OJTや道徳通信を通して児童の心を育む道徳の環境づくりについてやふれあい道徳についての工夫の幅を広げていきたい。 ・校内研修を通して、道徳に関する研修を行うことができた。次年度も引き続き研修等を行い、教師全体で道徳の授業力の向上を	A	・道徳教材を通して、人を大切にしなければならないという気持ちや、今後も育んでいってほしい。	道徳教育推進教員(大森)	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校で安心して楽しく過ごしているという保護者の割合90％以上	・月に1回の「気になる子」報告会と、心のアンケートでいじめにつながる可能性がある事案の対応にあたる。 ・いじめ対策委員会において、具体的な対応策を協議し職員全体で指導対応にあたる。 ・全教科を通して人権・同和教育を推進する。	B	・毎週水曜日に「気になる子」を担当や級外から報告し、その子に対する対応を考えた。長期にわたって対応が必要な子どもについては、ケース会議を開き、具体的な支援について話し合い、学校全体で支援にあたっている。 ・いじめに関する事案では、迅速に対策会議を開き、早期に且つ全職員で共通理解を持った。また、担任を中心に、対象児童・児童の保護者と話し合いをもち、全職員で対応していた。	A	・保護者アンケートで「子どもが安心して楽しく学校に通っている」と回答した保護者の割合は、ほぼ90%であった。いじめ事案に対しては、迅速に対応し、全職員で共通理解を図りながら対応ができた。次年度も全職員の共通理解を図り、長期にわたって対応が必要な子どもについては、ケース会議で協議しながら学校全体で支援を行っていきたい。	A	・子どもが安心して楽しく学校の通っているの回答が90%であることは素晴らしい。保護者との関係もよくとれていると感じた。 ・否定的な回答をした残りの10%の児童に対してもしっかりと関わりを持ってもらいたい。 ・保護者アンケートの結果は、学校の信頼関係が構築されている成果だと考える。困り感のある児童・保護者へは早期発見・早期支援を願う。	人権・同和教育担当(蒲川・千賀) 生徒指導主任(井手)	
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85％以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童90％以上	・「キャリアパスポート」を活用し、学校生活の中でめあてを持った振り返りを行ったし自己評価を行い、主体的に学びに向かう力ややり抜く力を育成する。 ・各種体験活動で、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実施する。	B	・5学級の児童にアンケートを実施した結果「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童95.6%、「目標やめあてをもって生活している」と回答した児童92.6%であった。キャリアパスポートの活用や行事ごとの学びの振り返りが、児童の主体的に学びに向かう力に繋がっていると考えられる。今後も多くの職員で児童の活動に関わり、児童が夢や目標をもって生活できるように取り組んでいく。	B	・児童にアンケートを実施した結果「友達や先生はあなたのよいところやがんばったところをほめてくれた」と回答した児童89.6%、「将来の夢がある」と回答した児童81.8%、「学校や家庭で、目標をもって生活していますか」と回答した児童が79.2%であった。次年度は、キャリアパスポートを有効活用し、様々な教育活動の中で、見通しと学びの振り返りを行えるような活動を仕組んでいきたい。	A	・「ほめるからはじめる、はじまる」の意識を常に持ち、児童の承認の欲求を満たし、自尊心が高まる教育活動を期待する。 ・家庭においても褒められることが多くなれば、児童は幸福な気持ちを持てるかもしれないと思う。	特活主任(掛園) 各学級担任	
●健康・体づくり	①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができている児童を85％以上 ②「健康に良い食事をしている」児童100%	①睡眠や朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の習慣化を行う。また、学校および学年通信等で基本的な生活習慣の習慣化について定期的に啓発する。 ②各学年の指導目標を実現できるよう意識して指導する。	B	・睡眠だけでなく、朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の啓発を行っている。健康に関するアンケートを取り、基本的な生活習慣が定着している児童を把握する。 ・成果指標を100%にしていたが、家庭状況や実態を考慮し、「バランスの良い食事をしていく児童90%」を目指す。各学年の指導目標や実態を担任に把握することはできた。来年度は各学年の指導目標を後期に行う。	A	・保健だけでなく等で啓発は継続してできた。健康に関するアンケートを10月に実施し、その結果を受け、チェックシートに全校で取り組んだ。定着していない児童が多いため、継続して啓発を行い、家庭と連携を図る。 ・食育指導が全学年には実施できなかった。98%の児童が「健康に食事は大切だと感じているため、バランスの良い食事を心がけるように指導している」。	A	・給食があるのでういかに食事のバランスが保たれていると聞いたことがある。食の大切さについて今後も指導をお願いしたい。	食育担当(福田) 養護教諭(塚本)	
	○体育的行事の充実 ・体育、健康、保健に係る教育の推進	○体力向上に関する児童一人一人の学びの充実を大切にしようとする教師85％以上	・日々の体育の授業を中心にして、スポーツフェスタなど体を動かすことの心地よさに触れさせる機会を設定し、体力向上の推進を図る。 ・計画的、定期的に体力向上に関する取り組みを実施し、学級指導に活用する。	B	・新体力テストの結果を受け、10月と1月に運動委員会企画のスポーツフェスタで体を動かす心地よさに触れる機会を設定する。 ・豊かなスポーツライフの実現に向けて、運動の特性に合った授業づくりをしていくよう促す。夏休みには保体部長による「体づくり運動」のミニ研修会を行い、教師の授業力向上を図った。	A	・10月と1月に運動委員会企画のスポーツイベントで体を動かす心地よさに触れる機会を設定した。昼休み短縮実施等(25分減)もあり外遊びの時間が減ってきているため、継続して企画していきたい。 ・ミニ研修会などを通して、体育の授業における教師力の向上を図った。今年度の肯定的な回答は91%で目標達成できた。次年度は、体育の年間計画の見直しや調整を図り、各学年がより系統	A	・動と静のメリハリのある学校生活を基本にけがや事故のないことを願う。	保体部	
	●時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守。個人の勤務超過時間の平均40時間以内が実施できた職員85％以上	・毎週金曜日に定期退勤日を設け、定時退勤を呼び掛ける。 ・毎月「業務チェックシート」で、勤務時間の改善を図る。	B	・時間外在校勤務時間は、毎月、前年を下回っており、職員全体の月平均勤務時間は40時間以内に収まっている。一方、個人の勤務超過時間の月平均40時間以内の割合は、約80%であり、偏りがみられる。今後、毎週金曜日の定時退勤日の推奨やタイムマネジメントを意識した業務の遂行等をさらに進めていきたい。	A	・時間外在校勤務時間は、毎月、前年を下回っており、職員全体の月平均勤務時間は40時間以内に収まった。ただ、偏りがみられるため、今後、毎週金曜日の定時退勤日の推奨やタイムマネジメントを意識した業務の遂行等をさらに進めていきたい。	A	・業務改善に積極的に取り組まれている姿勢が感じられ、職員の安心感と勤務校への誇りにつながっているようだ。子供の成長を期する教育活動に直結する業務改善に期待する。 ・時間外在校勤務時間が職員全体で減少していくように願う。ゆとりをもって児童に接してほしい。 ・この書類作成一つとっても軽減する方法はないかと思う。	教頭・事務長	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○働き方改革の本質の徹底	○行事や会議の削減・凝縮や、家庭・地域からの協力などにより、児童と向き合う時間が増えた教員85％以上	・行事や会議を効率的で効果的に削減・凝縮したり、教育DXを推進したりして、児童と向き合う時間を確保する。 ・家庭・地域に対し、教員の本務に専念できる環境作りへの協力・連携を依頼する。	B	・行事や会議等を見直して、年度初めに児童と向き合う時間や職員の月末の業務時間等を確保したり、教育DXを推進し、学校からの保護者への配布物やアンケートをデジタル化して、集計や配布等に要する時間削減に務めたりした。今後も継続していきたい。	A	・教師アンケートでは、約96%が児童と向き合う時間が増えた」と回答した。今後も教育DXを推進し、事務作業の時間削減に努めたり、行事等の精選に努めていきたい。	A		教頭・事務長	
	○特別支援教育の充実 ・保護者や専門機関との連携	○児童との関係を大切にしたり相談活動を充実させる。情報交換により児童理解ができた」と回答した教師80％にする。	・計画的、定期的に会議(支援会議、スマイル会議、スクールカウンセラーのカウンセリングの報告、巡回相談等)を実施し、児童の実態把握、関係機関との連携を協議し、支援体制を構築する。 ・全職員に対して児童理解に関する意識調査を行う。	B	・気になる子についての報告、支援会議、スマイル会議、スクールカウンセラーのカウンセリングの報告を、計画的・定期的に実施し、児童の実態把握に努めた。関係機関との連携を協議し、医療やスクールカウンセラー・福祉機関との支援体制を構築することができた。 ・夏季休業中に、スクールカウンセラーによる研修会を実施した。 ・全職員に対して児童理解に関する意識調査は、2月実施の予定である。	A	・教師アンケートで「児童理解が図れた」と肯定的に回答した教師の割合は100%であった。また、児童アンケートで分からないことや困ったことを「相談している」と答えた児童の割合は70.2%であった。 ・報告会や支援会議等を計画的・定期的に実施し、外部関係機関と連携しながら、必要な支援ができた。	A	・職員の特別支援教育に関する資質向上にも努めてもらいたい。	心の教育部	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○地域連携による共育	○民間の良さを取り込んだ「花まるタイム」の推進 ○地域とのつながりを感じ、郷土を愛する心の育成	○地域の方や官民一体型学校のよさを活用して、児童が生き生きと学習できる環境を構築する。地域の方のゲストティーチャー活用、花まるタイムの取り組みについて肯定的な回答をする児童と地域の方々80％以上	・花まるタイムの年間計画に基づいた計画的な実施。 ・地域の方と児童が交流している姿をHPや掲示板を使って取り上げ、地域の方の花まるタイムへの意欲を上げる。 ・地域の方をGT活用(地域との連携)	B	・花まるに関する児童の意識調査の結果から、取り組みの意欲や目的意識が低いことがわかった。花まるの1つ1つのプログラムの目的を再度確認し、児童にめあてをもって取り組むような指導・支援を行っていくことで高めていきたい。 ・地域の方をゲストティーチャーに招き、児童の学習や学校行事などの指導・支援を行っていただいている。支援が必要な児童への個別対応が可能になり、地域の方を実感できている。	A	・花まるタイムの進め方について職員で再度確認し共通理解して指導・支援を行った。めあてを意識することで、意欲的に取り組む児童が増えている。 ・児童の学習や学校行事などの指導・支援のために多くの地域の方をゲストティーチャーに招き、充実した活動を行うことができていた。地域の方から学校からも情報を出し合い、積極的に地域の方の力を活用することができた。	A	・学校行事に地域の方が参加できていることに感謝している。今後も地域と連携をとり、児童がいろいろなことを体験できるようにと願う。 ・それぞれの学年で地域の人材活用に努めていただいていることに感謝している。これからも地域や育友会との連携を大切に「武雄くらしき」を作り続けてもらうよう期待する。 ・花まるタイムの始まりはいろいろあったが、学校の中に入っていけば、子どもたちとのふれあいの時間は貴重だった。	教務	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学力向上・・・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りつつ、児童一人一人の学力向上につながる授業改善を全職員で継続して行う。 ・望ましい生活習慣・・・家庭と連携しながら、「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を図る。スマートフォンをはじめとする情報機器との付き合い方に関するお便りや講演会等を通じて、児童や保護者へ啓発を図る。 ・心の教育・・・「ほめるからはじめる、はじまる」を常に意識し、児童が将来の夢や目標をもち、学校や家庭で目標をもって生活するような活動を仕組んでいく。 ・業務改善・働き方改革・・・それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を推進し、定時退勤日をはじめ、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。
----------------	--